

みなみたま

会報「みなみたま」第15号

発行 南多摩同窓会あかね会
 発行者 浜中 賢司
 〒192-8562 東京都八王子市明神町 4-20-1
 東京都立南多摩中等教育学校内
 URL: www.akanekai.org/
 Email: mail@akanekai.org



体育祭 (南多摩中等教育学校提供)

目次

【御挨拶】

社会のメンバーとして、同窓会の絆を深める
 (浜中 賢司) 2
 御挨拶 (宮嶋 淳一) 2

【学校の動向】

令和5年度の取組 (桂 優子) 3
 南多摩中等教育学校卒業生の進路 (小出 千亜希) . 5

【新入会員紹介】

南多摩での6年間 (朝日 美有) 6
 南多摩での6年間 (田邊 奈穂) 6

【卒業生訪問】

小林伸好さんにインタビュー (入沢 修自) 7

【南多摩の思い出】

昭和57年3月卒「アラ還」同窓会
 (昭和57年卒 3年1組 3年2組 参加者一同) ... 9

最後のクラス会 (田中 ミホ) 10
 奄美大島の太鼓部応援に行く (比留間 美代子) .. 10
 東京都立第四高等女学校に学んで (松井 嗟峨) .. 11
 御岳山にも同窓生 高尾山、時には御岳山はいかが？
 (井上 務) 13
 ふるさとの山と南高の思い出 (小島 みどり) 13
 南多摩高校時代の思い出 (勝沢 幸男) 15
 南高蹴球部の仲間たち (藤森 雄一) 16
 僕の夢 (緑川 卓男) 17
 青春時代 (木村 中充) 17
 高校時代から今に至って (川原山 由香) 18
 高校時代と30年後のわたし (川村 美知恵) 19
【同窓会からのお知らせ】
 同窓会の活動及び母校支援について 20
 令和6年度あかね会総会開催のお知らせ 24

ご挨拶

社会のメンバーとして、同窓会の絆を深める

南多摩同窓会あかね会 会長 浜中 賢司

今年元旦に北陸で起きた地震で明けました。能登半島地震と名付けられましたが、災害に合われた地域の皆様には、今も厳しい避難生活や生活対応を迫られ大変な思いでいることに、日本中の方が心を痛めています。日本人は農耕民族であることで絆を大切にする文化が育ったともいわれています。人は一人では生きていけないのは人類共通です。こうした災害の時こそ助け合うことが求められます。災害の多い日本でこそ絆の大切さが重要視されているのではないのでしょうか。しかし、最近は仲間の大切さやコミュニティの重要性は少し薄れてきているともいわれています。

そうした中、南多摩中等教育学校でのつながり、仲間の意識は、現役の皆様も我々同窓生もいつまでも変わらず持ち続けてほしいものです。現在の南多摩中等教育学校は12歳から18歳まで在籍するわけですが、この時期は人生においても重要な時期、最も感性豊かな時期、不安も希望も併せ持つ時期、大人の入り口です。こうした成長期を学校関係者の皆様には専門的な立場で見守っていただいております。一方同窓会の皆様も、卒業後の人生の中で、学校とのつながりは時々ではありますが、少なからず関心を持っていただいているの

ではないでしょうか。昨年度は『南魂祭』には事情もあり参加できませんでしたが、部活などの活動に対しては例年通りお手伝いをしております。これからも、現役の皆様とは、情報を共有して積極的に参加してまいりたいと思っています。「南多摩」という共通の絆を持ち続けることで、誇りをもって社会でも活躍できますよう願っています。

私事ですが、私は現役の時、サッカー部に所属しておりました。卒業後、地元の社会人のリーグでチーム名「南多摩高校OB」として15年ほど活動しておりました。他にも八王子の高校のOBのチームもあり、さながら現役の時のイメージで楽しくサッカーを楽しみました。現役も同窓会の皆様も一度つながった絆は強いものがあると感じています。

今年も150名の新会員が仲間になりました。「あかね会」としましては出来るだけ多くの会員の皆様に情報提供をさせて頂きたいと思っています。長いお付き合いになると思いますので、参加できる行事などには是非ご参加いただきたいと思っております。

今年もよろしく願いいたします。

令和6年3月

御挨拶

東京都立南多摩中等教育学校 校長 宮嶋 淳一



南多摩同窓会あかね会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の充実に向け、御支援・御協力を賜り、誠にありがとうございます。会報「みなみたま」第15号の発行にあたり、一言、御挨拶申し上げます。

令和5年度を振り返ると、昨年度までのコロナ禍で、できなかったことを取り戻す一年間でした。本校の最大の行事である南魂祭（体育祭・合唱祭・文化祭）につきましては、コロナ禍前の規模で無事に実施することができました。特に文化祭は4年振りに一般公開し、保護者の方々や地域の皆様、小学生など、多くの来場者をお迎えし、リアルで開催いたしました。文化活動は、オンラインでも感動を届けることができます。しかし、生徒にとっては、今年度、来場者の表情や反応を間近に感じながら発表できたことの達成感や充実感は格別だったと思っております。

また、オーストラリア研修旅行についても、本来計画していた4年生に加え、昨年度実施できなかった5年生も併せ、300名規模で渡航し、かけがえのない体験や思い出を創ることができました。なお、国際交流については、コロナ禍で渡航が難しい中にあっても歩みを止めず、オンラインでベトナムやイタリアの高校生との交流を行ってまいりましたが、これらの交流も継続して実施しております。

さらに、マラソン大会は4年振りに実施でき、探究活動の成果発表会も一般公開し、生徒の日頃の努力や学習の成果を遺憾なく発揮することができました。

今後、本校においては、単にコロナ禍前に戻すのではなく、コロナ禍で必要に迫られて対応していく中で獲得した手法も生かし、様々な教育の場面でリアルとオンラインとのハイブリッドにより一層の活動の充実を図り、グローバル人材の育成を進めてまいります。あかね会の皆様には、引き続き本校の教育活動をお支えくださいますようお願い申し上げます。

令和5年度の取組

南多摩中等教育学校 副校長 桂 優子

あかね会の皆様、いつも多大なる御支援・御協力をいただきありがとうございます。令和5年度は、コロナ禍での4年間の教育活動を経て、それ以前の教育活動に徐々に戻すことのできた一年でした。本校では、単に元に戻すのではなく、コロナ禍での経験も踏まえながら、伝統を重んじつつ探究活動を柱とする特色ある教育活動を一層推進していこうと考えています。引き続き、本校の取組について御理解いただき、更なる発展に向けて、あかね会の皆様の御支援をいただければ幸いです。

1 母校支援をいただいた取組

(1) 部活動支援

関東大会以上の大会に出場を決めた部活動等に対し、御支援をいただいています。令和5年度は、次の部活動に御支援いただきました。

太鼓部

- ・成田太鼓祭・全国高等学校総合文化祭
- ・第13回関東地区高等学校和太鼓選手権

日本文化部

- ・全国高等学校総合文化祭（茶道）

後期陸上競技部

- ・関東大会

後期女子硬式テニス

- ・関東公立大会

薙刀部

- ・関東大会・全国高等学校総合体育大会

水泳部

- ・関東大会・全国高等学校総合体育大会
- ・特別国民体育大会（国民体育大会）

令和6年度についても、現在までのところ、太鼓部及び後期科学部が、全国高等学校総合文化祭への出場を決めています。引き続き、応援をよろしく願います。

(2) 進学指導支援

東京都では、働き方改革の一環として、学校閉庁日を設けています。その内、夏季休業中の学校閉庁日に、クリエイトホールの会議室等を活用し、PTAおやじの会の御協力を得て、後期生対象自主学習スペース「Study Room」を開設していただきました。令和5年度は、台風接近の心配もありましたが、3日間のべ18名の利用がありました。費用の御支援ありがとうございました。

(3) 学校行事支援

「南魂祭」の一つである「合唱祭」の審査員をお願いしていた卒業生に、交通費の支援をいただきました。

(4) 卒業証書等フォルダー

9期生及微12期生に御寄贈いただきました。

2 学校行事

(1) 宿泊行事・校外学習

令和5年度、コロナ禍明けを象徴する学校行事の一つは、海外研修旅行です。教育課程上は、4年生の夏に位置付けていますが、令和5年度は、コロナ禍で実施が見送りになっていた5年生と共に300名程の規模で実施しました。渡航先は、豪州、7月に5泊7日の日程で行いました。



海外研修旅行の様子

1日目は、夕方に羽田空港に集合し、機中泊で現地に向かいました。2日目は朝、シドニー空港に到着し、ホームステイ先のあるマンリー地区へバスで移動します。ホストファミリーに出迎えられ、それぞれの御家庭に分かれて、思い思いの歓迎を受けました。3日目は、世界遺産であるブルーマウンテンズへ向かいました。午後は、ルーラの街を訪れました。英語を駆使して、食事や買い物を体験しました。4日目は、タロンガ動物園や州立美術館を訪問しました。園内では、現地ガイドによる説明を受けながら、多様な動物に触れました。5日目は、シドニー大学訪問やオペラハウス見学など、事前に選んだ体験のコースに分かれて活動をしました。6日目は、早朝、ホストファミリーとお別れをし、事前に立てた計画に基づいて、シドニーの街で自主研修に臨みました。夕方、シドニー空港に移動、夜の便で機内泊し、帰国しました。

海外研修旅行は、ホストファミリー宅でホームステイが体験できる貴重な機会です。各人が、各家庭の温かい思いに包まれながら、生活を通して多くの異文化に触れました。そして、参加した全員、無事に帰ってくることができました。

1年生から3年生対象の国内研修旅行も予定どおりに実施することができました。10月には、1泊で1年生が御殿場研修旅行、2泊3日で、2年生が奈良・京都研修旅行、3年生が福島研修旅行を無事に終了することができました。

コロナ禍が明け、海外研修旅行が再開できた一方で、研修旅行費等の高騰等が、課題となっています。今後の本校における宿泊研修旅行については、コロナ禍の影響で整えにくかった実施学年や場所を含め、検討の時期が来ていると認識しています。

(2) 南魂祭



体育祭

5月の体育祭は、令和5年度も富士森公園陸上競技場において、実施しました。会場の収容人数による制限はありましたが、保護者に御観覧いただくことができました。

6月の合唱祭は、J:COMホールで、4年ぶりに前期生・後期生合同で開催できました。参加したそれぞれのクラスが、素晴らしい歌声を響かせました。一クラスが、学級閉鎖により不参加となってしまうので、令和6年度は、完全開催を目指していきます。

9月の文化祭も、4年ぶりに、一般への公開を含む制限全廃での実施ができました。たくさんの方に御来場いただき、行事にも全力で取り組む生徒たちの躍動する姿を御覧いただける機会になりました。

(3) 八王子市との取組

6月に、八王子市長と語る会に参加し、「車人形はなぜ重要文化財に指定されたのか」について、2年生生徒2名が発表を行い、意見交換を行いました。令和6年2月、八王子市学園都市センターにて、八王子市主催の令和5年度「高校生によるまちづくり提案発表会」が開催され、本校の3・4・5年生21名が参加しました。



八王子市まちづくり提案発表会

3 探究活動を支える指定校事業及び助成

あかね会の母校支援に加えて、令和4年度まで指定を受けていたWWLコンソーシアム構築支援事業に代表される様々な指定事業や助成によって、本校の特色ある教育活動が実現できています。令和5年度は、次の指定事業等がありました。

(1) 東京都教育委員会指定事業

① Global Education Network20 (GE-NET20)

令和5年度も継続して、イタリアデラッラカ高校との協働研究「Passoプロジェクト」、ベトナムチューバンアン高校との国際交流プログラムなど、オンラインを活用したグローバルな学びの場を提供することができました。

② 海外学校間交流推進校

グローバル人材育成の一層の促進を図るため、海外の高校等との交流活動を積極的に推進する先導的学校の一

つに指定され、交流活動に必要な教育環境の整備等の支援をいただきました。11月にヨルダン生徒12名及び引率者2名の訪問を受け入れ、前期・後期生と交流を行いました。



ヨルダン生徒訪問

③ 探究的な学び推進事業

「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な学びにおいて、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る本事業の指定を受け、外部人材を活用した指導体制の確立し、充実した探究的活動を実施することができました。

④ TOKYOデジタルリーディングハイスクール研究指定校

令和5年度も指定をいただき、ICT環境の整備、を活用した教育の充実に取組むと共に、東京都全体のDX推進に資する調査等に取組みました。

⑤ 防災教育研究指定校

防災支援隊を中心に、「新しい日常」における避難所設営・運営訓練をテーマに掲げ、研究に取組みました。令和6年東京消防庁出初式において、防災パネルを展示しました。校内に掲示しています。

⑥ Sport-Science Promotion Club

「東京都教育委員会運動部活動の在り方に関する方針」に則り、科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果が得られるような合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する「Sport-SciencePromotionClub」に、薙刀部が指定を受け、生徒の健全育成、競技力の向上、競技種目の普及・育成、地域貢献に取り組みました。

(2) 三菱みらい財団

令和5年度も、本校の特色の一つである探究活動の充実に資する多大な支援をいただきました。

(3) STEAM海外派遣研修

本研修は、世界水準の先端技術や芸術に関する施設や講義を直接見学、聴講するとともに、これらを題材としたワークショップ等の受講や生徒間交流を通じ、教科等横断的な学びに必要な「探究する力、思考法、表現方法」を身に付けるための「気付きを得る」ことを目的に実施されます。応募校の中から、10校が選抜され、本校の応募者5年生4名も3月中旬から約1週間、アメリカ合衆国へ渡航し、研修を受講することになりました。現在は、国内で事前研修等により準備をしています。

南多摩中等教育学校では、コロナ禍でも、学びを止めることなく、生徒たちにとって豊かな学びが実現できるよう取組んできました。あかね会の皆様におかれましては、今後とも南多摩中等教育学校への御支援、御協力をいただきたく存じます。教職員一同、今後もあかね会の益々の御発展をお祈りしております。

南多摩中等教育学校卒業生の進路

南多摩中等教育学校 進路指導部主任 小出 千亜希

今年卒業の9期生は、前期課程最終年度での新型コロナウイルス感染症による臨時休校、後期課程進級と同時にオンライン授業、3大行事・部活動の制限という困難な状況にありながらも知的好奇心を育み、学びに向かうひたむきな努力を積み重ねた生徒たちでした。大学入学共通テストは152名全員が出願し、無事に受験することができました。その後の個別入試で、国公立大学の後期日程までに70名が合格し、国公立の現役合格率は46.1%となりました。特に難関国公立大学では東京大学9名、京都大学

1名、一橋大学5名、東京工業大学5名、国公立医学部2名が合格となり、過去最多となる22名の生徒が難関国公立大学への進学を果たしました。国公立大学では学校内外の様々な活動やLWP（ライフワークプロジェクト）の論文を活かして、総合型選抜・学校推薦型入試で合格した生徒も多く出ました。東北大学3名、東京工業大学、九州大学、筑波大学等に合格しました。

私立大学では早慶上智、理科大やGMARCHに多くの生徒が合格し、非常に良好な結果を残しました。

9期生（2024年卒）合格実績（2024年3月26日現在）

1 国公立大学（現役のみ）

国公立大学	合格者数
東北大学	4
岩手大学	1
筑波大学	2
宇都宮大学	1
千葉大学	1
お茶の水女子大学	2
電気通信大学	2
東京大学	9
東京医科歯科大学	1
東京外国語大学	1
東京工業大学	5
東京農工大学	2
東京学芸大学	2
東京海洋大学	1
一橋大学	5
横浜国立大学	6
山梨大学	1
信州大学	1
浜松医科大学	1
新潟大学	1
奈良女子大学	1
京都大学	1
大阪大学	1
九州大学	1
宮崎大学	1
青森公立大学	1
宮城大学	1
東京都立大学	12
横浜市立大学	1
都留文科大学	1
計	70

上記のうち医学部医学科	合格者数
浜松医科大学	1
宮崎大学	1

注) 9期生（現役のみ 卒業生 152名）

2 私立大学（現役のみ）

私立大学	合格者数
早稲田大学	50
慶應義塾大学	20
上智大学	13
東京理科大学	24
明治大学	56
青山学院大学	20
立教大学	23
中央大学	46
法政大学	38
学習院大学	4
国際基督教大学	1
成城大学	7
成蹊大学	17
國學院大学	3
明治学院大学	6
武蔵大学	19
芝浦工業大学	13
日本大学	6
東洋大学	9
駒澤大学	5
専修大学	17
津田塾大学	2
東京女子大学	2
日本女子大学	1
東京農業大学	9
武蔵野大学	9
東海大学	10
北里大学	7
工学院大学	5
東京都市大学	6
東京工科大学	7
東京薬科大学	6
同志社大学	8
私立大学総計※	541

3 短大・海外大学・専門学校

海外、短大、専門等	合格者数
日本工学院専門学校	1

合格者数：複数大学の合格者は重複計上

※ 掲載大学以外の合格者を含む

新入会員紹介

南多摩での6年間

令和6年卒(中等9期生) 朝日 美有

南多摩で過ごした6年間の記憶をたどってみます。

一番古い記憶は、小学校6年生で受検した、適性検査です。東館と西館の区別がつかない私は、一人そわそわしながら廊下を歩きました。あの時の私にとって、南多摩の少し年季が入った校内は、別世界でした。しかし、今では、萌黄色の背もたれの椅子も、鈍色のロッカーも、教室を見下ろす扇風機も、かえって心を落ち着かせてくれます。6年間という月日は長いようで短い、そして濃密な時間でした。

まず、知恵を絞った思い出として記憶しているのが、委員会活動です。南多摩で自分を一新したいと思っていた私は、体育祭実行委員会の学年代表に立候補しました。緊張しながら手を挙げたことを今でも覚えています。その後、積極的に活動に取り組みました。しかし、2年生の3学期にはコロナ禍の生活が始まり、学校行事は中止・縮小され、これまでの日常生活が日常ではなくなりました。月日は過ぎ、制限が徐々に緩和されてきていた4年生の3学期、私は、体育祭実行委員長を務めました。委員長として、大きな挑戦となったのが「富士森競技場での体育祭開催計画」です。数人の仲間たちと決行を決めた日から体育祭当日まで、幾度となく話し合い、知恵を出し合いました。前例のない取り組みに、約2か月間、

想像以上に忙しい日々を送りました。周囲の協力もあり、無事に新しいスタイルの体育祭を行うことができました。委員会活動を通じて、イベントを計画する難しさややりがい、そして達成感を味わいました。

次に、心を震わせた思い出として記憶しているのが、部活動です。1年生から6年生の夏まで太鼓部に所属していました。先輩のようにかっこよく太鼓を叩きたいという一心で日々練習に励み、太鼓の技術を磨いていました。太鼓の演奏では、50名以上の部員が舞台に立ちます。舞台では、音、姿勢、表情、気持ちを揃えなければなりません。意見の食い違いから、部内でぶつかることもありました。しかし、副部長として部の運営に携わったこと、部員と本心と本心で濃密なコミュニケーションができたこと、全国の大舞台に二度も立てたことなどは、かけがえのない経験となりました。

私は南多摩で、仲間と出会い、人生の糧になる経験ができました。共に生活した同級生、後輩、先輩、支えてくださった先生方、OB・OGの皆様、様々な支援をくださったあかね会の方々に感謝しております。南多摩生だったことを誇りとして新たなステージに挑戦します。そして、これからは、あかね会の一員として後輩を見守っていきたいと思います。

南多摩での6年間

令和6年卒(中等9期生) 田邊 奈穂

初めての文化祭。私は6年生の先輩方が舞台に立ち、演劇をしている姿に感動した。そして私も6年生になったら同じように舞台に立ちたいと思った。それから6年、私はあの憧れの舞台に立った。文化祭の演劇は、舞台に立つ人だけが頑張るわけではなくクラス全員で協力し合い作り上げていく。私たちのクラスは賞を取ることはできなかったが、クラス全員が一体となって作り上げた舞台に満足している。最高の2日間だった。そして、6年生で行った演劇だけでなく、5年生で行ったコーヒークップも4年生で行った映画作りも、1、2年生で行った縁日も私にとって南多摩での良い思い出である。

しかし私の南多摩生活においてもっとも象徴的なのは薙刀である。私は中高と薙刀部に所属していたが、中学生のころは練習が厳しく部活に行きたくないと思うことがよくあった。しかし、コロナウイルスの影響で部活ができなくなった時、普通に学校へ行き部活をすることがどれだけ幸せなことなのかを感じ、部活が再開してからは今まで以上に熱を入れて薙刀に取り組んだ。5年生の時には、部長という役職に就いた。前期と後期が一緒に行う部活ということもあって全員が薙刀に一生懸命に取

り組めるよう配慮することは大変だった。しかし、薙刀を精一杯取り組めることが普通ではないことを知っているからこそ最後まで頑張り通すことができた。

また、薙刀競技としては団体でインターハイに出場した。夏は防具をつけるだけでも暑かったが、コロナウイルス対策の一環としてフェイスシールドをつけて練習するのは苦行だった。しかし、いままで団体戦でインターハイに出場したことはなく、私たちはそれを目標にして薙刀に取り組んでいたため暑くても練習し続けることができた。そして、その成果が実を結びインターハイへの切符を手にしたときは本当にうれしかった。高校生全員が経験できる場ではないからこそ、とても貴重な体験ができたと思う。試合が始まった時に踏み出した「1歩」は今でも忘れられない。

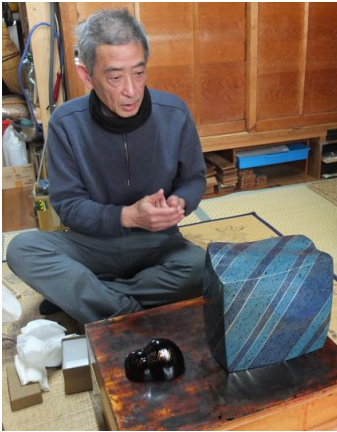
最後にこれらの充実した学校生活を送ることができたのは、先生方、あかね会の皆様の多大なるご支援のおかげです。本当にありがとうございます。この南多摩で経験したことを胸に大学生活という大きな「1歩」を踏み出したいと思います。

卒業生訪問

小林伸好さんにインタビュー

平成5年卒 入沢 修自

昭和47年卒の佐藤弘子様より、同級生に是非とも取材してほしい方がいると情報をいただきました。以下ご紹介いただいた小林伸好さんの1時間半ほどのインタビューをまとめたものです。インタビューでは、小林伸好さんが、ご自身の個性を発揮されて、どんな半生を歩まれたのかを伺うことが出来ました。



小林さんへのインタビューをとおして、人間としての幅というか、当然のことながら自分が歩んだ道とは異なる人生もあることを知り、あらためて「そういう生き方もある」、という新たな抽斗を見つめることが出来たように思います。

入沢 本日は宜しくお願ひします。

小林 南高の方も随分変わってますよね。中高一貫校になって。僕なんか入ったときは、昭和47年に卒業なんだけれど、都内でもそうでしたが学生運動が凄い時期で、入学したら2年生、3年生が体育館に全校の生徒と先生を集めて先生に多くの質問をするなど、いろんなことがあった。僕なんかは隣の五中出身で、一小、五中、南高と八王子を出たことがなかったので、学生運動には驚かされた。先生方も最低限の授業しかしない。制服が廃止されて服装が自由になったり、大分いろんなことが変わった。全部が全部憶えているわけではないけれども、そういうふうに変る時期だったんじゃないかな。

入沢 授業しない、となると随分時間が余りますね。

小林 それまでは、受験勉強ということで午前中から午後まで授業があったのだが、授業は文部省が最低限これだけやれば良いという範囲だけで、受験に対する勉強はやらなくていいんじゃないかということ。確か授業は午前中だけで、午後は先生方がやってくさる授業を自由に出席すればよい、そんな感じだった。

入沢 美術の道を選ばれたのは、どんな理由があったのでしょうか？

小林 もともといろんなスポーツはやってたんだけど、高校3年生になって、じゃあどう進路かとなったときに、美術やる人は皆同じなのだろうけれど、何かを作ることが好きだった、そういうことがきっかけですね。僕の場合は、美術の荻田先生が油絵の先生だったんです。友達が美術部に入ってたもんだから、何回

か通っているうちに、荻田先生からいろいろ話を聞いた。今だと美術に進むとしたら高校1年からデッサンやったりするんだろうけど、僕は高校3年の夏くらいから始めるのが遅かった。当時はまだそれほど美術が流行っていなかったから、僕もほとんど知らないまま、美術というとデザインみたいなことなんじゃないか、くらいのイメージで美術の大学に行くことにした。

入沢 親御さんは、お前が決めたんだからと認めてくれたのですか？

小林 美術やるんだったらいいよ、と言ってくれた。反対されることはなかった。そんな厳しい世界だということは自分では分からなかったし。そう言われてもじゃあその先どんなふうになっていくのか、想像もつかないし。ただ絵を描いたりなんかするのが楽しいし、面白かったんで、懸命にやれた。高校3年生でデッサンをやりだしたときに、荻田先生の教え子で南高の先輩が多摩美に入ったので、その先輩にデッサン見ってもらったりした。その先輩が行っていた目白の予備校の冬期講習を勧められて、ようやく本格的に美大志望の皆とデッサンするようになった。そこではデッサンのコンクールなどがあって、2番の成績がとれて「何だデッサン簡単じゃないか」みたいな。それで先生に話したら、芸大も簡単に入れますよなんて言われて。

当時の僕は、「何だデッサン描ける」と思っちゃった。実際は受験に行ったとき、受験生が何百人もいて、一緒に描くんだけど、まわりの受験生が描いたデッサンの立体感を見て、凄い人たちがいるんだと初めて知って落ち込みましたね。当然、受験しても受からなかったし、それから冬期講習に行った目白の予備校に1年通った。予備校行ったときには「うわあ周りにこんな上手い人が沢山いるんだ」とびっくりした。世の中を知らなすぎた。

入沢 人生初の挫折でしょうか。

小林 中学校から落ちることなく来たから、大学を受験してどこにも行くところがないとなったときに、真っ白になって、「え、どうするんだろう」。そんな感じを今でも憶えている。

入沢 ただ描くことが好きだったということでしょうか。

小林 でねえ、今は工芸の漆なんですけども、予備校に行って、美術の中でも油絵があったり、日本画があったり、彫刻があったり、デザインがあったり、工芸があったりと、いろんなジャンルがあることを知った。たまたま工芸の先生として来ていた宮田良平さんは、文化庁長官もされた方で、東京芸大の学長もされた方

が指導に来ていた。予備校に入ったときにはデザインを専攻したけど、受験するときには工芸で受けることにした。

入沢 工芸の受験もあるのですね。

小林 デザイン科と工芸科が別々にある。芸大の場合は工芸の中に6専攻あって、専攻を選ぶのは、芸大の講義に入ってからでいいんです。当時は600人から800人の受験生、工芸も20倍から30倍、一番多かったときで50倍。一浪で芸大に入ったときには南高に荻田先生がまだいらっしゃって、美術室にいる先生のところへ挨拶しに行ったら、先生方のいる職員室に案内されて、合格報告しました。

入沢 先輩の略歴を拝見していますと、美術の道をまっすぐ進まれていますね。

小林 漆芸を専攻してからは大学院に進んで、大学院を卒業の時に青森県津軽の方に行っただけです。津軽の青森県工業試験場は、試験研究機関になるんですけども、大学院に津軽の職人さんが勉強に来ていて、その方と仲良くなったのがご縁でした。その方は野球がもの凄く好きでした。上野の芸大から後楽園が近く、職人さんといっても県の職員の方だから、「小林君野球見に行こうよ」と誘われて行く。すると、芸大の前にタクシーとめてそこから後楽園行くと、ビールや焼き鳥を外野席でおごってくれたのが思い出です。

入沢 青森県の職員さんが職人として、芸大に研修に来られるのですか？教念に来るのですか？

小林 国内留学と皆言っていました。派遣されて勉強しに来ていました。試験研究機関にもデザインとかいろんな分野があるんですけども、各機関の方々が勉強のために謂わば国内留学という形で、半年くらい来ていました。青森県工業試験場の方は、半年で帰りましたが、僕が卒業するときに彼の方から、県の研究機関に欠員がでたと連絡があって、いろんな話もしましたし仲も良かったから、お前だったらこっちでもやっていけそうだと言うことで誘ってもらいました。僕も八王子からあまり出たことがなかったけれど、試験研究機関で漆のことをずっとやりながらお金もいただけるならと、津軽の方にいったんです。

入沢 お話をこれまで伺っていて若干、青森のイントネーションが入っているのかなと思いました。漆工課に勤務してから、東北芸術工科大学の設立に携われたとのことですが。

小林 向こうに行って12～13年経ったときに、山形市で山形には公立大学が少ないとのことで、県をあげて大学を作りたい、山形市内に美術大学をつくるという話になった。僕が芸大に行っているときに、大学院に山形市の職員が来られた。その方は漆が好きで、僕は担当教授の先生から面倒見るように言われ、その人に漆や木工ろくろ、お椀を引いたり、いろんなことを教えたことがあった。その後、弘前に行ったので交流はなか

ったけど、青森県で12～13年経ったある日、その彼から連絡があり、山形に美術大学を作って工芸の中に漆の科目を置きたいので「小林君、先生として来てくれないか」と言われた。

入沢 その山形の職員の方も、青森県職員の方と同様？

小林 山形の方は市の職員で、大学設立に当たっては、事務局で働くことになっていて、その方がいろんな伝手を頼って教職員を集めていた。開学の前の年から、準備委員会というのがあるんだけど、僕は青森にいなから準備委員会の方に呼ばれて行くようになった。だから、やっぱり人とのつながりみたいなことが、大事ですよ。

入沢 凄いですね、繋がっていたのですね。ところで、小林さんは文化財漆協会の理事長をされていますね。

小林 (日本製の漆器は世界中に流通していて、その修理とか、漆の需要がないわけではない、と奥様) スペインの展覧会は、日本全国にある文化財漆協会や日本漆工協会など、漆に関する全国的な組織がいくつかあって、その中の漆工協会の会員として、海外で展覧会をやるというのを手伝ったという経緯です。

文化財漆協会には人間国宝の方々がいらっしゃる。僕が大学を退任してから次の年、今2年目、文化財漆協会の理事長を仰せつかってやっている。

入沢 確かに文化財については保護・補修などのニーズもありそうです。

小林 文化財漆協会は文科省、漆工協会は林野庁の管轄になる。

入沢 私たちは職業につながりにくい教育を受けて、何になるのか分からずに、結局私の場合は司法書士になって、10年20年、事務所も安定してきたときに、はたと「自分は何がしたかったのだろう」と思ったりします。先輩の場合は、まっすぐに。

小林 まっすぐに、ということでもないんですけど、さっきも言ったように運みたいなものもあるんじゃないかな。一浪して芸大に入ったときも、入ってみると大体三浪くらい、一浪なんてペーパーみたいなもんで、同じ学年なのに年上ばかり。南高の同級生で学芸大入ったのもいて、南高の同窓生とも月1回くらい10人くらいの飲み会やってた。ただ、その同窓生も既に3人ほど亡くなった。高校時代の付き合いも大切にしている。

入沢 大学時代から出会われた方々の縁を大切にされていて、私も一人で抱え込まないように。勉強になりました。最後に在校生へのメッセージなどありましたらお願いします。

小林 自分のやりたいことをやれるように考えていってほしい。自分のやりたいことに向かっていってほしい。いま選択肢が沢山あって、あっちもやれて、こっちもやれて、マルチみたいなことが良いと言われるけど、僕には漆しかなかった。そういう生き方や考え方もある。いろんな生き方の中に自分を見つけてほしい。

昭和57年3月卒「アラ還」同窓会

昭和57年卒 3年1組 3年2組 参加者一同

令和5年11月18日(土)に、昭和56年度卒3年1組(担任:小林一雅先生・数学)、3年2組(担任:大塚大先生・地理)の合同同窓会が開催されました。

時を遡ること4か月前の7月、LINEで「今年は還暦という節目の年、皆さんで集まりませんか?」とお誘いの一報が届きました。



20名位集まれば良いかなと、8名程の同窓会実行委員会なるものを立ち上げスタートしました。ターゲットは11月頃と決め、昔の名簿を辿りながら電話とSNSを使い安否確認開始します。時には直接、自宅にメモなどの投函を行った結果、50名程に連絡が付くようになりました。9月には、同窓会実行委員メンバーが集まり会場の下見を実施し、母校見学会と懇親会の構成を決めて解散です。

【母校見学会】

当日、16時30分に正門前集合しましたが、在学中の正門が移動になり母校目前で迷子が続出!!少し遅れて見学会参加者21名が勢ぞろいしました。事前に母校の情報をいただき、我々が在学中の校舎などは建て替えて残っていないと聞いていました。しかし、何と一部ですが、40年前の面影を感じることができました。



見学会を終え、理科室でリラックスモード

母校見学会では、在校生の皆さんが挨拶してくれ、19時まで自主的に勉強していることに感服しました。

あかね会及び桂副校長には大変お世話になり、この場をお借りしてお礼を申し上げます。いただいた学校のパ

ンフレットを持って懇親会へ。

【懇親会】

京王八王子駅前「バクダッドカフェ」で18時からスタート。受付で会費徴収及び名札を配布しましたが、長い年月を重ね、お名前とお顔が一致しない方もチラホラと...

2クラス合わせて約半数が集まり、旧交を温めました。懐かしい思い出や、その後の仕事の話、現在の様子、家族の話など話題に尽きることなく語り合い、お酒も進みます。長い時間を隔てても、顔を合わせれば皆「同級生」で、やはり同級生はいいものだなと再認識したのでした。



懇親会参加者の面々

二次会含め5時間程の長丁場でしたが、参加者全員楽しく終えることができました。

最後は、ご健康と還暦及び再会を祈願して万歳三唱!
＼(o^)/ ＼(o^)/ ＼(o^)/



閉会のあいさつ

次回はアラ古希で再会しましょう。その前にも会いたいですね!!

最後のクラス会

昭和35年卒 田中(旧姓 内田)ミホ

「最後のクラス会」と銘打って、昨年10月20日、京王プラザホテル八王子においてクラス会を開催しました。はるばる長野県飯山から参加してくれた人もあり、集まったのは12人。時空を超えてすぐ高校時代の思い出話に花が咲き、近況など本当によくお喋りをしました。

入学当初は校舎も古く、板張りの廊下はところどころ剥がれ、雨が降れば天井からは雨漏りもしていた記憶があります。当時は小・中学校にプールのない地域もあり、泳ぎの苦手な友人も多くいました。水泳の授業では、高い飛び込み台からの飛び込みのテストがあり、大野先生、近藤先生が竹竿を持って、アップアップする者をつかま

らせ、大変な思いをした人もいました(笑)。私は、家のすぐ裏手に平井川(現在のあきる野市)が流れており、よく泳ぎに行きましたので多少は泳げましたが・・・なんとも懐かしい思い出です。

皆でワイワイ、本当に楽しいことが一杯だった高校生活が走馬燈のように浮かんでいきます。八十路を迎えた今、なつかしく青春の一コマを思い出すことができ、嬉しく思っています。

会の最後には、校歌「湧水は街をめぐり いつも映す雲や風を」を歌い、友と別れました。

奄美大島の太鼓部応援に行く

昭和32年卒 比留間(旧姓 藤田)美代子

「大丈夫かしら？」

奄美大島で3日間にわたって開催される「第47回全国高等学校総合文化祭」に、年代の違う卒業生女性4人が南多摩の太鼓部応援に行きました。

令和5年7月31日、瞑想台風が沖縄周辺で停滞し再び戻るといふとき、8時5分の羽田発鹿兒島行きに心配しながら乗りました。鹿兒島空港では、待機していた乗り継ぎの小型飛行機に急いで駆け登りました。その飛行機は少し揺れましたが、奄美空港に着陸したときは拍手をしたい気持ちでした。空港の外は風だけが椰子の木を撫でていました。



大会の芸能の部に出場した現地の高校生と

空港でレンタカーを4日間借り、まず名物の鶏飯ランチを済ませてホテルに直行します。南多摩の太鼓部の生徒も同じホテルでした。生徒が近くの市民センターで太鼓練習をしていると聞き、見学に行きました。

練習会場では、今川先生、OB、舞台演出の方達の熱心なご指導のもと、生徒達が練習に励んでいました。オーストラリアの研修を終え、帰国して間もなく合流した生徒もいるそうです。太鼓部の皆さんの元気な姿を拝見して安心しました。

8月1日、いよいよ本番の日は、会場の奄美文化センターは内も外も人、人、人です。大会には全国の52校が出場、最終日のその日は26校がしのぎを削り、南多摩の出場は3番目です。発表曲はお馴染みの「八多化(やたけ)の響き」です。



大会のパフレットより

この演目の紹介によると、「八多化とは八丈島を表す古い言葉です。八丈島はかつて流刑地であり、言い伝えでは村人と明るい日々を過ごしながらも、刀からバチに持ち替えて、募る思いを太鼓に打ち込んだそうです。本演目は八丈島のリズムを使って、初めに明朗な島の日々

を表現し、続いて太鼓節という歌とともに本土への郷愁を勇壮に打ち込み、最後にその思いを爆発させて激しく叩き込みます」とありました。

さて、幕がスルスルと上がり、一同が舞台狭しとばかりに堂々と現れ、会場はシーンとします。太鼓が鳴り始めると、一糸乱れず迫力のある響きは聞く人の心に触れ、また周りの人を唸らせました。思わず「最高！」と、叫んでしまいました。

昼の休憩ののち午後の発表が終わり、審査結果が気になるものの会場を後にしました。結果はホテルのロビーで知りました。優秀校は2校ですが、南多摩は僅差で賞を逃してしまいました。賞に入ったうちの1校は、その日最後に出場した学校でしたが、この学校も良い演奏でした。「でも何で！ どうして！ 審査員の耳には最後に出場した太鼓しか印象に残らなかったのか」と。生徒達もどれ程悔しいことでしょう。

8月2日は、生徒達が帰る日です。しかし、台風の影響で飛行機も船（太鼓の輸送）も総て欠航です。生徒達はどうしているでしょう。先生方はロビーで額に眉を寄せて相談中です。飛行機の欠航、食事手配、余分な出費、生徒の体調等緊急事態への対応です。そのような中、私達は翌日に帰る予定のため、海洋展示館と田中一村美術館のみの見学をして来ました。

8月3日は、私達が帰る日でしたが、私達の飛行機は欠航していませんでした。ホテルのロビーでは、先生方が額を寄せ合い相談中のようにでしたが、空港の方も気になるので、私達は予定より5時間も早くホテルを出ました。空港は大混雑で、臨時便が出るか出ないか大変だったようです。私達は、幸運にも時間どおり飛行機が飛び無事家路に就きました。その日の夕方臨時便が用意されて、南多摩の生徒達も1日遅れで無事帰れたようでした。

8月5日の八王子祭りでは、猛暑の中を生徒達が元気に太鼓を叩いていました。

東京都立第四高等女学校に学んで

昭和21年卒(4年生) 松井 嵯峨

毎年、会報「みなみたま」をありがとうございます。懐かしく拝見していますが、第四高女の影が見えないことを残念に思い、日頃の思いを綴りました。

約80年前の実話、昔話をいたします。長い人生で数知れぬ体験がありましたが、女学校の4年間は物資も乏しく、生きることに精一杯の時代でした。よくもこれまで生き抜いたものと思います。

昭和16年、私は11歳の小学校6年生でした。東京府立の女学校を受験するべく、師範出身で元小学校訓導の母に、1日1時間ずつの特訓を受けていました。前年度から口頭試問に変わり、何が出るか分からないので、部屋への入り方・出方、挨拶の仕方、答え方、果物の食べ方まで、さらに「なぜ戦争になったか」と、細かく教えられたのでした。

12月8日、ラジオの大本営発表で、盛んに真珠湾攻撃が告げられました。第2次世界大戦（大東亜戦争）の開戦に、恐怖を持ち聞き入りました。当時、地元には4年制の第九高女と5年制の第四高女しかありません。友人と仲良く第九高女に願書を出すと、教育パパが私の願書を、第四高女に変えてしまいました。将来のことを考えてのことでした。

入学試験は2日間で、「修身、国語、算数、歴史、地理、理科、家庭環境と美術」の7教科と体育、身体検査でした。田舎の小規模校でしたので、色々と学びに不足があり、特に理科の実験などはしたこともなく、酸素の実験が出来なくて恥ずかしかった記憶があります。

体育は懸垂ができないので、担任に「落ちても知らんぞ」と言われていました。鉄棒でなく、横木でしたから10回も出来てしまいました。身体検査は、前後パンツを下ろされてびっくりでしたが、水泳の盛んな学校で脱腸を調べたようです。後日、そのために補欠になった方がいたと聞きました。

合格の自信がないので、恐る恐る発表日に合格を見て驚きでした。担任に報告すると、「えっ！ 本当かい？・・・」。忘れません・・・。

立派な体育館での入学式には、校長の吾妻利八先生が「金剛石」のお話をなされ「人は磨かなければ・・・」と。また、全員の歌も「金剛石も磨かずば」の歌であり、私には生涯の目標ともなりました。60人4組の窮屈な毎日でしたが、水を得た魚のように毎日が楽しく、お友達も出来て新鮮でした。



担任の増山恒先生

しかし、戦局は次第に日常を苦しめて、一番困ったのはお作法の時間に靴下がなくて、配給のスフの靴下を大事に使うのですが、大きな穴が開いてしまうことがしばしばでした。1日と15日は梅干し弁当と決められ、大根の葉を炒めたものが入っていても咎められました。夏の間、体育は全て水泳で、冬は武道、薙刀でダンスなどは

なくて、鍛える形でした。

第四高女の制服は着られず、全国统一のへちま襟となり、第四高女のしるしの「中央に校章、4本の線があるベルト」が欲しくて、先輩から譲り受けましたが、余りに古くミシンで直して使いました。遊んでばかりで、成績が悪く父に叱られ、特に、英語、数学、漢文はしっかりやれと言われて、次第に学習の仕方も慣れて向上しました。2年生になると寒中訓練や強行軍などで益々鍛えられ、学校農場でサツマイモを作るなどして、経験したことのない「農家へ麦刈り」勤労奉仕にも行きました。



高女4年生 へちま襟の制服

友人の影響で読書三昧ともなり、家の本棚のすべてを読み切りました。女学校で忘れられないものは、送別会と卒業式です。送り、送られる色々な歌、学芸会のような学年からの贈り物、憧れたお姉さまとのお別れ、涙が頬を伝わります。また、ほかに時々講演会や、木村岳風さんの詩吟などもありました。

3年から進学部、家政部に分かれました。しかし、7月から2つに分けられて、立川の飛行機工場と通信工場への学徒動員となり、日曜日に学校の授業に行くだけとなるのです。驚いたことは、お給料を40円頂き、25円を学校に収めて15円は貯金でした。作業中に度々の空襲



当時の教職員の皆様 前列右から5人目が岩崎源兵衛校長先生

があり、防空壕では防空頭巾をかぶり、缶に入れて持ち歩く煎り大豆を食べることもありました。会社からは時に配給がありましたが、メンマや大根漬は臭くて、電車で帰る者には閉口でした。アメリカの機銃掃射はパイロットが見える位の低空飛行であり、竹藪に入り難を逃れました。各地の空襲による被害、サイパン島、アッツ島、硫黄島の玉砕に泣きました。

あるとき、工場の手前で特攻隊の数名に出会いました。飛行場で出発の儀式から出発して、空を一巡した姿に、泣きながら手を振り見送りました。我が家の一人息子で

あった兄は甲府に学徒でしたが、7月7日に、B29の爆撃に会い即死してしまいました。私の人生で一番の悲しい出来事に出会いました。



焼失前の第四高女の正門 門を入った右側に守衛室があった

8月2日の八王子空襲で、歴史ある学校は焼失しました。焼け跡で釘拾いなどをしました。お寺や石川の小学校の教室などで、教科書を墨で塗りつぶし、民主教育への転換でした。昭和21年2月26日、日本はインフレ政策の新円切り替えをして、世帯主は300円、家族は100円しか使えなくなり、生活を粛清させられたのです。

3月に天皇陛下が行幸され、学校を視察されたことは歴史に残る事柄で皆の励みとなりました。平屋の仮校舎が着々と出来上がります。戦時特例法で5年制ながら4年で卒業が出来ましたので、私は上級学校へ進学のために卒業しました。50人ほどの方は5年生に進みました。入学以来、「第四高女では悪いことをすると、職員会議にかけられて私立へ送られる」と諭されて、皆が真面目でありました。それは人生を作る一つでもあったのではないかと考えます。私はその後も真面目に暮らしました。

旧制専門学校を卒業後、新制高校の教諭となり、養子を迎えて、30年勤続しながら2人の男児を育てました。東大に合格しました長男は、祖父の希望を受け入れて慶応大学の医学部を出て、現在はその2人が大学の副学長をしています。

私は退職後、父の会社を継承して23年間の代表を終えて、社会に尽くすことが出来ました。両親に感謝の気持ちを持ちつつ現在93歳となり、世の中の変化に驚きつつ老人ホームで元気に暮らしています。

新しい南多摩中等教育学校のご発展を祈り、ペンを置きます。長々としたお話は、終わります。



93歳のわたし

(令和5年6月)

御岳山にも同窓生 高尾山、時には御岳山はいかが？

昭和44年卒 井上 務

60歳で定年、生れ育った街に少しは恩返しを！と考えていた私。徒歩圏内にある青梅市郷土博物館の解説ボランティアに応募、採用していただきました。いろいろ勉強中、他市の郷土博物館を訪問するという企画があり、旧・八王子市郷土博物館を訪れることになりました。入口すぐに大きな年表。八王子の歴史が綴られている年表の冒頭部分を見てビックリ。南多摩同期・菱山氏が発掘した土偶のことが記されているではありませんか！今なら“あのNHK「歴史探偵」で伊能忠敬の地図作りを実に分かり易く再現して見せた菱山さん”と自慢したことでしょうが、その日は「この土偶を見つけたのは私の高校同期の友人」と誇らしげに語りました。すると私たちが引率して下さった青梅市文化財保護指導員の小島みどりさんが「高校はどちら？」と聞いて下さいました。「八王子の南多摩高校ですヨ」と回答すると「エッ〜、先輩！」と言うのです！！途端に急接近、会話が弾んでしまいました。以来、青梅市郷土博物館でいろいろお世話になっているという訳です。このような場所にも同窓生、多くの卒業生を世に送り出した歴史ある母校に感謝したものです。

さて、国宝が1つもない県があるそうですが青梅市には2つも国宝があります。その2つともが御岳山にあるのです。そして、小島さん（旧姓・清水さん、昭和51年卒）はその御岳山と深い縁があります。そこで「高校時代の思い出に加え、八王子市民の皆さんには高尾山はお馴染みですがチョット離れた御岳山の魅力などに触れた一文を会報に寄せて」とお願いいたしました。小島さんは菱山氏同様にいろいろなメディアにも頻繁に登場する多忙な有名人。「半年後ぐらいに原稿が届けば大丈夫ですから」とお願いしました。そして「写真を1枚」とい

きなりお願いし「お化粧もしていないのに困るワァ〜」と言っているのを無視してパチリ。その写真を添えます。



写真は多摩川の清流が眼前の青梅市郷土博物館隣接、国の重要文化財「旧宮崎家住宅」前で撮りました。

文化財は火気厳禁が通例ですが、この茅葺屋根の住宅では囲炉裏が現役、立ち上る煙で住宅は燻製、文化財の保存に貢献、懐かしい囲炉裏の匂いがします。♪母さんが夜なべをして・・・囲炉裏の匂いがした〜♪の歌を思い出したりします。

近くには宿泊施設もあります。チャンスがありましたら「あかね会」会報持参で足を運んでみてください。「この写真に写っている方はいませんか？」とボランティアの方がおりましたら訊いてみてください。もしかすると私はウロウロ、小島さんからは丁寧な解説があるかもしれません。

では、青梅あるいは御岳山でバツタリお会いする日を楽しみにしております。

ふるさとの山と南高の思い出

昭和51年卒 小島(旧姓 清水)みどり

八王子の歴史が詰まった^{しのおてきさい}塩野適齋の『^{そうと}桑都日記』を読んでいた時に、「そういえば、母校の校章は木の葉のデザインだったな」と思い、机の引き出しの奥から校章を取り出し、よく見ると、やっぱり木の葉。これは桑の葉だ、と気が付きました。そうか、八王子は桑の都と言われていたから校章に桑の葉がデザインされていたのかと今さらながら納得。

その程度の母校愛しかない私に、グイグイと母校愛を

押し付けてくる井上 務先輩と遭遇してしまいました。井上先輩は私の仕事場である青梅市郷土博物館へ突然やってきて、「一緒に写真を撮るから外に出て」といきなりカメラを構え、「マスクをはずして」と注文をつけ、最後に「同窓会誌に御岳山のことと高校時代の思い出を書いてね」と言い残して去って行きました。

次に会った時には、「徒歩圏内で原稿を書いてくれる人が見つかってよかった、御岳山のことを書いてね」と

またまた御岳山を出してきました。

井上先輩は、どうやら私を御岳山出身だと思っていたようです。残念ながら私は御岳山の出身ではありません。御岳山にも卒業生はいますが、南多摩高校には通学できません。

私は御岳山の麓で生まれ育ち、現在も青梅市内に住んでいます。青梅市文化財保護指導員として市内の旧家の古文書を調査したり、市民に文化財を紹介したり、青梅市郷土博物館で週に2日ほど仕事もしています。



青梅市郷土博物館

御岳山のこと・・・八王子市に標高599mの高尾山があるとしたら、青梅市には標高929mの御岳山があります。高尾山には薬王院があり、御岳山には武蔵御嶽神社があります。



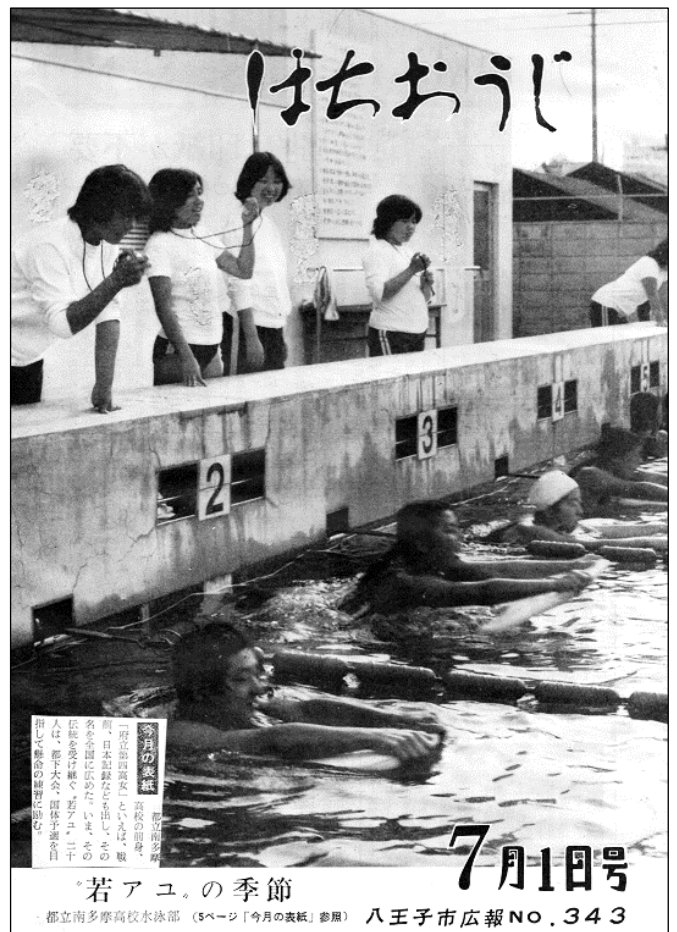
武蔵御嶽神社

武蔵御嶽神社は古くから武士の信仰が篤かったために、奉納された武具や馬具が御神宝として数多く残されています。中でも畠山重忠が奉納したと伝えられている「赤糸威の鎧」と「円文螺鈿の鏡鞍」は国宝に指定されています。

御岳山は、激混み高尾山と違い、静かな山登りができ、たくさんのすばらしい文化財に接することができる場所です。私にとってはふるさとの山と言えます。

南高の思い出・・・私が南多摩高校に入学したのは、昭和48年です。私たちは三無主義といって「無気力・無責任・無関心」とまったくやる気のない世代でした。入学時に先輩達が学生運動をして生徒手帳をなくしたと聞き、高校生でもそんなことができるのかとぼんやり思ったものです。

私は水泳部に入り、勉強はたいしてせずに、毎日毎日クラブ活動ばかりの高校生活をおくりました。都立の弱小水泳部でしたから、自己ベストタイムを出すことが目標で、「昨日より速く」を常にめざしていました。4月の始業式から9月末頃まで、観客席のある深いプールで泳いだ日々が懐かしいです。



広報「はちおうじ」昭和49年7月1日号表紙「若アユの季節」
プールサイドの左から2人目が小島さん

今月の表紙 都立南多摩高校の前身、「府立第四高女」といえば、戦前、日本記録なども出し、その名を全国に広めた。いま、その伝統を受け継ぐ“若アユ”二十人は、都下大会、国体予選を目指して懸命の練習に励む。

何年前かにスキーで上腕部を骨折してしまい、完治しましたが、主治医から「もう水泳はできません」と言われました。家族の誰よりも長く速く泳ぐことができる自信があったのに。

最後に、50年ぶりに高校時代のことを思い出させてくれた井上 務先輩に感謝します。御岳山のこと、書きましたよ！

南多摩高校時代の思い出

昭和48年卒 勝沢 幸男

入学の頃

1970年(昭和45年)4月に、八王子市の南端にある由木中学校から南高に入学しました。ご承知の方が多数いらっしゃると思いますが、当時の南高は旧制高等女学校の「府立第四高等女学校」だったことから、女子の入学定員が多く、トイレも女子用が多かったと記憶しています(後述しますが、1年生で入笠山に登った際のクラス集合写真では、男子21名に対して女子27名でした)。なお、私の母からは「当時の府立第四高等女学校は多摩地域の女子の憧れの女学校だった」と聞いていました。卒業して数年後、この「女高男低」は解消したと聞いています。



入笠山登山での小林先生、クラス全員の集合写真
(最後列の右端は校長先生)

1 1年の思い出(担任、数学)

1年生(7組)のときの担任は数学の小林先生で、大変熱心に教えて頂いたことと、同時に南高で「高校の数学」を学べたことに充実感を持ったことを覚えています。

1年生で小林先生の影響を大きく受け、一層、理工系に傾注していきました。ご存知の方もいると思いますが、卒業してから数年後、小林先生がNHK教育放送の高校生向けの数学の講師をされていたのを覚えています。今思うと、南高時代に日本を代表する数学教師に学べたことを誇らしく思っています。

入学してまもなく、1年生恒例の野外教育活動の一環として、クラス全員で入笠山(長野県富士見市、標高1955m)に登ったことがあります。小林先生、クラス全員で汗をかきながら、登山と宿泊により小林先生とクラスの皆との友好を深め、高校生になったことの実感を持つことが出来、南高時代の忘れられない思い出の一つになっています。

2 体育、国語、物理の思い出

1年のとき、稲田先生、大野先生の体育授業が週合計

4日あり、普通科に入学したのに体育が週4日あることに驚きました。私は運動、特に長距離は苦手のため、冬季の月曜、火曜、水曜に行われる、南高→大和田橋→暁橋→南高のルート(約6km)の長距離走は苦しかったです。毎回最後尾集団となり、完走後は疲れ果て次の授業に力が入りませんでした。秋には校庭のトラックを2周(800m)する授業があり、必死になって走り漸く2周した時点で貧血になったことなど、南高時代の肉体的に苦しかった思い出として、今でも鮮明に思い出します。

現代国語の水田先生は、大学を卒業して間もないことから経験不足と思い、小説の感想文の回答に厳しい疑問を投げ掛けて困らせてしまったことがありました。大学卒業後44年間、産業界(FA関連メーカ)に身を置いてきましたが、今では理工系であっても国語(言葉)は自分の考えをお客様、上司、部下、他部門等のあらゆる方々に伝える手段として、極めて重要なことと分かりました。南高時代から国語が重要なことを理解していれば、水野先生の授業をもっと積極的、素直に受けていたのにと反省しています。

私の好きだった物理の三浦先生は、ゆったりとした説明で、難解な力学の問題を分かり易く教えて頂き、小林先生と同様に理工系に進んだ後押しになりました。

三浦先生の思い出として、大学入試前、図書館で自習していたとき、「勝沢君、受験はどうなったの?」と、突然に質問され、「これから山梨大(当時2期校)を受験します」と返事しました。三浦先生は「そうか、これからののか、蓄えた力を発揮して頑張ってください」と激励してくれたことが思い出されます。余談ですが、当時の国立2期校の受験日は3月の第2週頃で、結果発表が第4週だったと記憶しています。合格発表後、慌しく甲府に向かったことを覚えています。

3 数学同好会の思い出

1年生のとき札幌南高校から転校してきた山下君は、大の数学好きで優秀でした。担任の小林先生は数学の担当であり、数学の授業の中で出てきた問題の解答を、数学好きが集まって話すこと、「あーでもない、こーでもない・・・ワイワイガヤガヤ」がありました。それが発展して、1年7組を中心に「数学同好会」が結成されました。週2回位の頻度で放課後に集り、高校生の数学のバイブルと言われた「矢野健太郎著・数学2B」を使って、当番が問題の独自の解法を発表し、参加者で意見交換するという活動でした。南高時代の懐かしい思い出になっています。

南高時代を振り返ると、3年間という短い期間でしたが、忘れられない多数の思い出が残ったことと同時に、

南高卒業以降の私の人生に大きく影響していたと感じています。

卒業後の状況

1973年(昭和48年)に卒業後、4月に山梨大学工学部機械工学科に入学、1977年(昭和52年)に卒業、4月にF A

関係メーカーに就職。設計部門で27年間、営業部門で17年間従事し、2021年12月に44年間の勤務を終え退職しています。退職後2年が経過し、身も心も退職生活に漸く慣れてきました。当面、富士河口湖町で富士山や草木を眺めて暮らしたいと思っています。

南高蹴球部の仲間たち

平成4年卒 藤森 雄一

今年も高校サッカー選手権が始まった。4年ぶりのフル観客の声援に包まれ最高の舞台での白熱した戦いは、テレビで観ているこちらにも熱くなる。そんな選手権を観ながら、当時の南高の蹴球部の仲間を思い出してみた。



筆者は前列中央

背番号1 金子：ニューヨーク帰りとは思えない日本男児の風貌。当時、キーパー経験者がいない中、泣きながらMFからキーパーへの転身を決めてくれた。仕事は旅行会社のロンドン支店長など。

背番号2 中島：ブラジル帰りの杉並のお坊ちゃま。自称「サッカーがうまい」。おそらく今も、金融機関の管理職をやりつつ、サッカーを続けている。

背番号3 松森：中学時代は不良少年。南高では普段は天然で人気者。だがキレると、めっちゃくちゃ喧嘩が強い。仕事は自営で飲食店経営。

背番号4 高津：独特のキャラで、いつも周りに笑いをふりまく。音楽の授業中にバケツをかぶって教室を歩き回り、先生を泣かせた場面は今でも鮮明に思い出す。バイクでよく一緒に出掛けた。都内の人気居酒屋を経営していたが今は？

背番号5 長谷川：とにかく喧嘩っ早い彼だが、面白味に溢れいつもいたずらをしていた印象。今もアパレル関係でお洒落に働いてる？

背番号6 更科：松森と私と三人、同じ中学のサッカー部出身。とても面倒見が良く発想が豊かな彼は、卒業してからもサッカーチームを作ったり、周りからとても慕われ、今は学校の先生なのかな。

背番号7 能澤：負けず嫌いでキザな彼は、常に輪の中心に。卒業してから会っていない。

背番号8 小松：未経験でサッカー部へ入部。それでも誰よりも練習し、最も成長した仲間。休みはいつも一緒に居た。

背番号9 高橋：爽やかで優しく、日本人離れした顔立ち。大学でも一緒にサッカーをやった。

背番号10 佐藤：キャプテン。常駐コーチもいなかったこともあり、彼とはよく話をした。何でも自分たちで話して決めた。事故で車を大破させたとき、助けに来てくれたな。

背番号11 杉山：強引で突破力抜群。いろいろな局面で拘りも強い彼とは、卒業してからもよく雪山に滑りに行った。

背番号15 中垣：生まれも育ちもシンガポール。寒い日は学校に来ない。バンド活動も盛んで、校内外のライブでは、彼の曲に乗り皆で飛び跳ねた。いまはイタリアからトリュフの直輸入など、多彩な事業経営者。

マネージャー：自身もプレイヤーでもある木島と、メキシコ帰りの不思議ちゃん前川の二人は、とても面倒良く私たち部員を見守ってくれた。

あれから30年強経った今、日野市や相模原市でまちづくりの仕事に携わりながらふと思う。南高時代に育んだ数々、人と人との繋がりが今の自分を形成しているんだなど。

仲間たちと集まって、またボールを蹴りたいな。

僕の夢

平成9年卒 緑川 卓男

I have a dream

僕には夢がある。そう、「世界平和」である。

- 1 世界にはイスラム教、キリスト教、仏教といった色々な宗教がある。それぞれの人が色々なことを信じるのは自由だと思うが、宗教が違うことで争いが起きることのない世界をつくりたい。
- 2 次に、IT系の会社を、1個の会社にまとめてみたい。
- 3 職種により給料の幅が決まるのではなく、職種に関係なく優秀な人間に高給がわたる世の中にしたい。
- 4 20代のお金のない若い人達と、定年を過ぎたお金のない老人が、共に楽しんで過ごせるような世の中にしたい。
- 5 戦争が、もう二度と起こらない世界が、実現できるような仕組みを考えてみたい。

なぜ、仏教であったら、宗派が違うと一緒に敷地の墓におさまることはできないのだろうか。宗派が違うと、仏教ではないのだろうか？

そもそも、なぜ同じ人間なのに、仲良く同じ敷地の墓におさまることができないのだろうか。宗教の違いや、宗派の違いは、当然人間なのだから考えが違うし、あっていいと思う。ただ、考えが違うだけで、同じ船に乗ることができない理由が、僕にはわからない。

この前、京都の東本願寺に行ってきた。朝、法話があるので聞いてきた。

みんなにも、聞いて欲しい。7時30分～7時50分、10時10分～10時40分、13時10分～13時40分に開催されている。

自分が聞いたのは、山形県鶴岡市（東北教区）石原道明和尚であった。

内容は「三帰依文」で、3個の帰属先があり、お釈迦様を先生として考え、経典を社会のルールとして考え、お坊さんを仲間として考えて、先生に教を請いながら、社会のルールを守り、仲間と一緒に頑張っていこうという話だった。



仏教を信じる人が、どのような考えなのかは理解できたが、個人的には、子供のときから先生に教を請うわけではなく、先生の行動を参考に自ら考えて行動する。ルールはどのようなときに適用しないか自ら考える。仲間とは一緒に頑張るときもあるがあえて一

人のときもつくる、など、きちんと考えることが必要だと実感している。

こういったことができない大人が増えた結果、いまのような精神的に成熟していない大人があふれる結果になってしまったのではないか。冒頭に書いた1～5を実現できれば、世の中が少しはかわるのではないかと考えている。

最近、余りに子供のような大人とばかり接する機会が多いため、80億人いる人の中で1人でもいいから、自分の行動を見ることで正常な大人の判断ができる人が増えることを期待している。そのようにして、日々、BESTを尽くしている。

青春時代

平成19年卒 木村 中充

自分にとって、南高は青春の思い出である。僕の青春時代は学業はそっちのけで、部活動とバイトと恋愛の3つで彩られていた。

部活はサッカー部に入っていて、毎日汗を流していた。だが、当時はどうやったら上手くなるか、チームがどうすれば勝てるか、頭を使わずにサッカーを楽しんでいた。「戦術をこうすれば良かった、あーすれば良かった」と、

当時の仲間と議論をしながら酒を交わすのが、最近の楽しみである。

知識がある顧問の先生が、「戦術等を言ってくれば良かった！」となるのがいつものお酒の場の結論である。

そんな当時の後悔もあり、35歳になった今年からまたサッカーを始めた。八王子市1部のチームであり、自分にとっては正直レベルが高く、試合の強度も高い。だが

当時の後悔を晴らすには、このレベルがちょうど良い。

練習や筋トレ、ランニングを日々行なって、週末の試合に備える。活躍できるようになれば、当時の後悔は薄れていくと信じている。



高校2年生時のサッカー球技大会優勝時のクラスメイト

バイトをしていた理由は、好きな洋服を増やすのと、交際していた女性とのデート代を出すためであった。学生だから本業は学業じゃないか、と南高卒業の方のほとんどが思うだろう。

だけど、僕は学業でも落ちこぼれであったので、高校3年生のときは授業よりもバイトの時間の方が長く、お金を稼ぐことの大切さを社会で学んでいた。

しかし、こんな僕でも、一流企業や公務員に勤めてい

る頭の優秀な同級生と、今でも付き合いがある。「学業は大事だが全てではない」と、在校生の方に伝えたい。青春時代を共に過ごした友人と、いつまでも関係性を持つこと、それが一番大事だと今の自分は思う。



年2回集まるサッカー部のメンバー

今でも、自分は青春を謳歌していると思う。付き合いのある友人みんなには「ありがとう」と大声で言いたい。青春は仲間がいないと、彩ることができないからだ。

南高を楽しんでいた僕に、当時を思い出す機会をくださったあかね会の方々には感謝します。毎年、学校支援協力金に協力していたから、僕に連絡が来た。ぜひこれを読んでくださっている方も、南高の発展に協力しよう！

高校時代から今に至って

平成4年卒 川原山 由香



皆様、こんにちは。
平成4年3月に卒業した川原山由香と申します。弟も南多摩高校の出身となりますので、フルネームで・・・

冷静に振り返ってみると、卒業してもう30年以上になることに驚いています。高校時代の一番の思い出として

は、「二刀流で過ごしていた」ことです。

というのも、私は水泳部と女子バスケット部の両方の部活に所属していたのです。要は、水泳シーズンの夏は水泳に、それ以外ではバスケットという線引きです。今でこそ二刀流は有名ですが、当時はもちろん私のほかに

はいません。

本当は、高校では水泳部のみの所属と思っていましたが、中学校時代にも同じことをしていたのが知られて（バレて）、本人の意思に反してやらざると得ない状況になったのです。しかし、今思えば、現在も続けている友人たちと出会えたので、とても感謝しています。

その二刀流、今はさすがに続けられませんが、水泳は細々ですがやっています。学生時代の競泳とは違い、海で泳ぐことを友人に誘われ、遠泳もすることとなりました。

当時は、まだあまり知られていない競技で、競技人口も少なく、周りは顔見知りばかりなんていう大会もありました。そのつながりから、2005年には友人とドーバー海峡の横断泳に成功しました。

北京オリンピックから正式種目となった、「オープンウォータースイミング（OWS）」に足を突っ込むこと

になるとは思ってもいませんでした。OWSは、プール以外の海や川、湖で泳ぐ競技です。現在、日本水泳連盟のOWS委員（仕事ではなくボランティアです）として日本各地を動いております。

2021年の東京オリンピックの際には、お台場に朝4時に集合、準備、競技スタートというスケジュールで、数日間（もちろん仕事は有給休暇で）参加しました。

2023年の福岡世界水泳では、世界マスターズと合わせて10日間ほど福岡に行きました。

国民体育大会にもOWS競技があるんですよ！

そこにも役員として参加させていただき、2023年は屋久島に行かせてもらいました。今年から、国民スポーツ大会と名前を変えて実施されます。

学生時代には、全中、インターハイなどとは縁遠い選手だった私が、競技役員として選手権に関わっていることが不思議です。学生時代から続けていた好きなことに関われることは、楽しいことですし、仕事の息抜きにもなります。

今でも、「いろいろなことに興味をもち、楽しく生活していくことに心がけている」という思考は、高校時代と変わらないんだな～と思います。



世界水泳福岡大会 2023 筆者は右から4番目

高校時代と30年後のわたし

平成3年卒 川村 美知恵

中学生のときに、南多摩高校の文化祭を見学しました。生徒達が楽しそうに活動している様子、先生方が生徒を信頼し、自主性を尊重してくれている雰囲気など、校風が良さそうだなと感じ昭和63年春に入学しました。入学後は、自分が思っていた以上に積極性のある生徒が多く、圧倒されていた高校生活だったと感じています。



高2のときの、1～3年の体操部の男女部員

高校時代の一番の思い出は、女子器械体操部の活動です。他の部に入ろうと思っていたのですが、集合場所が

分からず学校外で練習をしていたため、参加できませんでした。そして、同じクラスの子に誘われて、体操部の体験入部をしたのがきっかけで入部しました。

体操部は、部として男子と女子に分かれていましたが、体育館やトレーニングルームなどで、一緒に練習をしていました。初心者で入部したときは、倒立もできませんでしたが、顧問の柿沼延廣先生や諸先輩方、同級生に指導や補助をしてもらいました。練習を重ね、ロンダード、前後の片手ブリッジ、転回、バック転など、少しずつできることが増えていきました。皆で上達して技ができるようになり、喜びを分かち合えることが嬉しかったです。

技の習得の過程では、突き指や腱や靭帯を痛め、腰痛や鉄棒で手の皮がむけるなどのケガをし、また思い切って挑戦する勇気が必要でした。

1年生の秋に新人大会に出場しました。経験のある部員やバレエやダンスが得意な部員に、演技・振付などを考えてもらいました。人前で一人で演技をするのが恥ずかしかったのですが、気持ちを振り絞って出場しました。

3年生の引退前の最後の大会では、学年別団体に東京都で9位に入りました。技術だけでなく印象も評価に影響するようで、その頃には緊張しても堂々と見せて、演技をやりきろうとするようになりました。

部活帰りに皆でジェラート屋へ寄ったり、柿沼先生の家へお邪魔してケーキを作ったのも楽しい思い出です。私たちが引退した何年かに、体操部は廃部になってしまったようです。

高校卒業後30年以上経ちますが、現在まで1学年下の後輩達が声をかけてくれて、柿沼先生と食事へ出かけ、先生の家を皆で訪問する交流が続いています。近況を話したりチェロ演奏を聴いたりなどして、和気あいあいとした楽しい時間を過ごします。良い先生と仲間達に出会えたことはとても幸せです。

仕事は、大学で心理・教育・福祉を専攻した後、心身の健康に関心があったことから、スポーツトレーナー、精神保健福祉士を経て、現在は介護支援専門員をしています。



顧問の柿沼先生の家で友人たちと共に

同窓会からのお知らせ

同窓会の活動及び母校支援について

◆令和5年度「あかね会定期総会」開催

令和5年5月21日(日)、八王子エルシーにおいて定期総会が31名の参加で開催されました。



総会の初めには、新校長の宮嶋淳一名誉会長から挨拶をいただき、第1部の定期総会が、中村晋也副会長の進行により始まりました。

浜中賢司会長代行の挨拶、議長に小山隆司常任委員（昭和36年卒）の選出ののち議事が始まりました。

令和4年度の事業報告、決算報告のほか、令和5年度の事業計画案、予算案は異議なく承認・可決されました。

役職	氏名	卒年
会長	浜中 賢司	S44
副会長	中村 晋也	S53
副会長	川崎 恵美子	S51
副会長	入沢 修自	H5

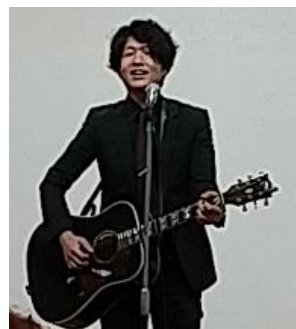
次に、浜中会長代行から役員案について説明があり、別記のとおり会長・副会長が承認されました。

第2部の「トーク&歌謡ショー」は、演歌歌手の伊達めぐみさん（平成3年卒）にお願いし、歌にトークにと40分のショータイムは、瞬間に



終わり、伊達さんの声量のある歌声と笑顔に、酔いしれたひと時を過ごしました。

第3部の懇親会は、入沢修自副会長の進行により始まり、会長挨拶、滝島徳久PTA会長の挨拶の後、石川和昭顧問による乾杯の発声で懇親会が始まりました。美味しい中華料理に舌鼓を打ちながら、会員の皆さんが和やかに歓談しました。その後、今回から常任委員になられた、シンガーソングライター



SI0の小塩晶人さん（昭和62年卒）にギター演奏で歌を歌っていただき、会場を盛り上げていただきました。

最後に伊達さんの音頭で、母校校歌「湧水は街を巡り・・・」を合唱し、閉会となりました。

◆母校の文化祭「南魂祭」を訪れる

9月9日～10日、一般参加を受け入れた「南魂祭」が開催されました。

屋上からのクラスの垂れ幕が飾られ、受付でプログラムと学校案内をいただき入校しました。

宮嶋淳一校長先生への挨拶の後、太鼓部顧問の今川健治先生にお会いし、奄美大島での全国



総文の太鼓競技会の話を書きました。

あかね会では、南魂祭で8期生による売店の「あかね屋」を計画しましたが、準備が間に合わず、今年のランチルームは、4年生、5年生の3クラスが、弁当、パン、おにぎりのほか飲み物、アイスのなどを販売していました。



10時半から演劇部の「トリコロール」という演劇を見ました。続いて、写真部の発表、科学部の発表、写真部の発表、社会科の発表、将棋部の発表を見ました。12時からは合唱部の発表を聴き、5曲が披露され、結びは昭和38年卒業生の郡司博さんが作詞・作曲した「無限の粒」で締めくくられました。12時半過ぎに学校見学を終えました。

(溝口 猛)

◆あかね会新年会の開催

1月20日(土)、八王子エルシーにおいて令和6年のあかね会新年会が開催されました。



あかね会は、会員の親睦を深めるため、定期総会のほか新年会を開催しています。これまで新型コロナウイルス感染症の影響で、過去3年

は中止となりましたが、今回の開催は4年ぶりとなり、参加者は20人と少なめでした。

進行は入沢修自副会長が行い、最初に浜中賢司会長か

ら、4年ぶりの開催でしたが、学校の支援は継続して行うなどの挨拶がありました。

来賓の母校・桂優子副校長先生から、日頃からの学校・生徒への支援の御礼、今年卒業の9期生は国公立大学受験などで努力中であり、150人があかね会に入会の予定である。今後も支援をいただき、学校運営・教育を充実させていきたいと述べられました。

次に、黒須隆一顧問(昭和35年卒業)が挨拶に立ち、昨年は台湾を7回訪問し、台湾大学、高雄大学で講演をされたと報告があり、その後乾杯の発声がにぎやかに行われ、懇親に入りました。

歓談ののち、新春インタビューとして、参加者から近況や今年の抱負などが語られました。シンガーソングライターのSIO小塩晶人さん(昭和62年卒業)が参加されていて、持参のギター片手に2曲の歌を披露してくれました。



終わりに、SIOさん、田中ミホさん(昭和35年卒業)の音頭で校歌斉唱となり、結びに小山隆司さん(昭和36年卒業)から閉会の言葉が述べられました。

◆会員名簿を有償頒布しています

あかね会は、2018年2月にあかね会「会員名簿」を発行しました。会員名簿に若干の残部があります。ご購入ご希望の方は有償(送料込4,600円)で頒布しますので、下記までご連絡ください。

なお、発行は実績と信頼のある業者に調査・作成を依頼し、約1500名の方々にご購入いただきました。

⇒連絡先 溝口 猛【電話】090-6489-593

同窓会会報「みなみたま」の広告掲載のお願い

あかね会では、学校や同窓会の情報を会員に幅広くお知らせするため、毎年4月末にあかね会会報『みなみたま』を15,000部発行しています。

この広告料は、母校の学校支援等に使用させていただいており、広告応募者には、会報に広告を掲載するとともに、同窓会のホームページ(<https://www.akanekai.org>)にも1年間広告を掲載します。

広告料金は、名刺サイズで、カラー1枠が2万円、白黒1枠が1万円です。広告掲載は24枠限定で、申込先着

順で24枠となった時点で締め切ります。

掲載内容としては、簡単なキャッチコピー、事業所名、住所・電話・FAX、httpアドレス、卒業生氏名・卒業年度などです。

令和7年度にあかね会会報に、広告の掲載を希望される方は、本年11月末までに下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

【連絡先】中村 晋也 電話：042(620)5425
e-mail: sinya@unto21.com

南多摩高校
平成3年卒業
歌手
伊達めぐみ

山梨ワインと家庭料理
ホテルベル鐘山
富士山リゾート&ビジネス
Tel 0555-24-8888

(有)オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局 山梨県富士吉田市上吉田東9-8-10

エス アンド エーキュー ジョシ
S.and A-9女史
祝 ユニットを組みました！
有線放送 第1位獲得！

八百屋音頭 c/w

がんばるんば 第1位



学校法人片柳学園

理事 黒須隆一【昭和35年卒】

東京工科大学
日本工学院専門学校 日本工学院八王子専門学校
日本工学院北海道専門学校 東京工科大学附属日本語学校
www.katayanagi.ac.jp

あかね会の皆様へ

SIO シンガーソングライター
(シオ)

2024.6.9(sun)
日野市民会館大ホール
「僕らの町コンサート」
目指せ1000人！
応援よろしくお願いたします

公式SITE 15:30開演 3000円 562年卒小堀晶人

おうちの悩みまるっと解決！ 町の水道屋さん

株式会社 市川工業所

専務取締役 野澤 経子 (旧姓 市川) (昭和55年卒)

〒192-0065 八王子市新町8-4
TEL : 042-642-4808 FAX : 042-642-6829
corp@ichikawa-works.co.jp

NAKANO

学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園

なかの幼稚園 そこは
子どもの世界です。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
http://www.nakano-kd.ed.jp/
前理事長 中村 健(昭和46年卒)

不動産プラザHAGIUDA

代表取締役
萩生田 俊一
(平成元年卒)

50周年を迎えました
50th ANNIVERSARY

萩生田観光株式会社
〒192-0355 八王子市堀之内三丁目 29 番地 20
TEL : 042-675-3111 MAIL : shun@hagiuda.co.jp

ISO 9001 認証取得
エコアクション 21 認証取得

黒須建設株式会社

代表取締役社長 黒須 光隆
取締役 黒須 俊輔(平成20年卒)

本社 〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL 042-642-5331(代) FAX 042-642-5314
http://www.kurosu-kensetsu.co.jp

冷凍食品で楽しい給食 (病院、施設の給食品専門問屋)

増田屋
株式会社 増田禎司商店

代表取締役 増田太郎 / 増田敦子(旧姓 土屋)(昭和34年卒)
〒193-0801 八王子市川口町 1415
TEL:042-654-2222 FAX:042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com
mail:info@masudaya1965.com

医療法人社団 大島会
大島耳鼻咽喉科クリニック

院長 大島 清史
大島 富子 (昭和25年卒)
〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9
TEL : 042-642-8012
http://www.oshima-ent.com

グループホーム
びおら

高齢者認知症の方の共同生活
介護を提供しています。

齊藤 万理子 (昭和44年卒)
〒192-0056 八王子市追分町9-4
TEL.042-682-1301
FAX.042-682-1305
http://www.biora.biz/

食品プロの御用達市場
八王子総合卸売センター (株)

取締役会長 佐藤 美千枝
(旧姓 勝田 昭和21年入)
〒192-0906 東京都八王子市北野町 584-30
TEL : 042-645-6500

損害保険、生命保険代理店
代理店を通じて皆様のネットワーク作りのお手伝いします。

有限会社 保険のイツツ

一宮 龍之
(旧姓 中川 昭和45年卒)
TEL : 042-587-3808 FAX : 042-587-3813
mail:y-its3808@viola.ocn.ne.jp



刷新ing

お任せ下さい！印刷のすべて。

取締役副社長 野口 富巳子 (昭和35年卒)

有限会社 **三共社** 〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1
TEL. (042) 625-8325 FAX. (042) 625-8369
<http://www.san-p.co.jp>

心のふるさと
祈りのお山

高尾山

薬王院前貫首 大山 隆玄 (昭和28年卒)
貫首 佐藤 秀仁

<http://www.takaosan.or.jp>

有限会社 保寿産業

代表取締役 小川 禎子 (昭和31年卒)

〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32
TEL : 042-526-2646 FAX : 042-529-7500

税金のご相談は



おざわ会計

税理士 小澤 麻里 (旧姓 小野島 平成5年卒)

TEL 042-663-6683 **おざわ会計 八王子**

〒193-0832 八王子市散田町3-19-19 2F

伊藤税務会計事務所

税理士 伊藤 正啓
伊藤 幸子 (昭和32年卒)

〒192-0045 八王子市大和田町3-6-21
TEL:(042)642-2719 FAX:(042)642-5034

一級建築士事務所

株式会社 浜中企画

浜中 賢司 (昭和44年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話:042(654)4325 FAX:042(654)6128
mail:hamanaka@tokyo.email.ne.jp

コンピュータソフト開発&運用

(有) ライズ

代表取締役 中村 晋也 (昭和53年卒)

〒192-0066 八王子市本町30-6 (N-Twoビル3F)
電話:042-620-5425 FAX:042-689-4149

法あるところに救済あり！

司法書士・行政書士 空衣事務所

相続登記はお早めに！

代表 入沢 修自 (平成5年卒)

〒206-0011 東京都多摩市関戸4-23-1 関戸ビル301
電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755
<http://www.sorai-law.com>

LPガス・リフォーム・ウォーターサーバー



MARUI GAS TOKYO
マルチガス東京株式会社

代表取締役 滝島 徳久
滝島 凜夏 (令和5年卒)

<https://mgtokyo.jp> 東京都八王子市檜原町542-1 042-622-3772

TKC. KFS 推進事務所

税理士法人 **西東京会計**

代表社員 加藤 晃 (昭和38年卒)

〒192-0032 東京都八王子市石川町 733-4
TEL:042-644-1771 FAX:042-645-7372
<http://www.tkcfn.com/ntk/>

豊田駅北口徒歩2分

あさひ耳鼻咽喉科クリニック

谷合 隆 (昭和44年卒)

〒191-0062 日野市多摩平1-4-19 藤ビル 3F
TEL : 042-587-4800

(有) 内田商店

フレッシュマート ウチダ

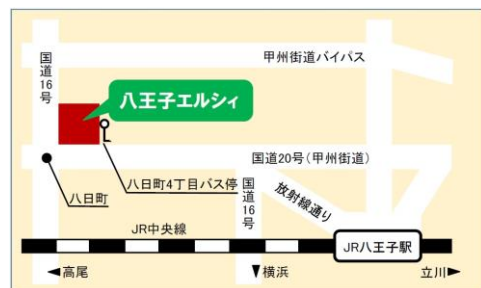
取締役 内田 育男 (昭和53年卒)

〒192-0063 八王子市元横山町3丁目 3-14
電話:042-642-1817 FAX:042-642-1815

「令和6年度 南多摩同窓会あかね会 定期総会」について

南多摩同窓会「あかね会」は同窓会の規約で、毎年、5月の第3日曜日に八王子市内で定期総会を開催することとしています。

定期総会では、事業計画や予算案を審議し承認を得たのち、第2部で卒業生を講師とした講演会を開催します。メインの懇親会では、新入会員を紹介し、懇親会を開催します。定期総会は、現在の母校を知る機会であり、共に学んだ仲間との再会、先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合っご参加ください。



八日町交差点角（八日町4丁目バス停下車）

令和6年度 定期総会

【日時】 令和6年5月19日(日) 11時～

会場受付 10時30分～

【場所】 八王子エルシィ【八王子駅 下車バス 5分】

八王子市八日町6-7 ☎042-623-2111

【懇親会費】 5千円（学生2千円）

（会費は当日徴収します）

【プログラム】

総会 11時～11時40分

事業報告・決算、事業計画・予算、その他

講演会 11時50分～12時30分

講師：小林伸好さん（昭和47年卒業）

東京芸術大学大学院美術研究科

工芸専攻（漆芸）修了

東北芸術工科大学工芸コース教授

日本文化財漆協会理事長

演題：「漆芸に関わって」

懇親会 12時40分～

昼食、懇談、新入会員の紹介等

【申込方法】 常任委員を通じてお申し込みください。

又は下記へ5月10日(土)までご連絡ください。

【メール】 mail@akanekai.org

【電話】 入沢 修自 ☎080-5075-5570

溝口 猛 ☎090-6489-5939



「学校支援協力金」のお願い

「学校支援協力金」は、同窓会として、在校生の学習、部活動、進路指導、卒業生への卒業証書フォルダーの提供などを積極的に支援するとともに、同窓会活動の継続を目的として、皆様にご協力をお願いしています。

昨年の会報第14号の発行は、卒業生会員（約3万名）のうち物故者、消息不明の方を除いた1万5,000名の方にお送りしました。広告料を含め、約500人の会員から

140万円のご協力をいただき、ありがとうございました。

令和3年度から、協力金の払込みは、郵便局のほかコンビニエンス・ストア（2千円の払込みに限ります）からもできますので、ご協力をよろしく願います。

1口千円で、なるべく2口以上のご協力をお願いしています。ご協力は任意ですので、お志のある方は可能な範囲でご協力をよろしく願います。

住所変更の際には、同窓会にご一報ください

毎年、広報紙を発行すると、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、同窓会の名簿担当にご連絡ください。

【メール】 meibo@akanekai.org

【郵便】 〒192-8562 八王子市明神町4-20-1

都立南多摩中等教育学校内 あかね会名簿担当あて

【編集後記】 長かったコロナウィルスとの戦いが昨年5月に終わりを迎え、ようやく日常が戻って来た。不自由な学校生活が続いた今年の卒業生は、最後の1年を日常の中で過ごすことができたようだ。文化祭や体育祭もコロナ禍前に戻って開催された。表紙はその体育祭の写真を使わせていただいた。限りなく広がる青空の下、コロナ禍を乗り越え、精一杯声を出し、体を動かす若者たちの姿が目につく。◇コロナウィルスでパンデミック

を経験した彼らは、日常の生活がもはや当たり前だとは思わなくなった。世界に目を向ければ、ウクライナやパレスチナで多くの若者や子供が戦いの犠牲になっている。国内でも今年元旦に発生した能登半島地震で一瞬のうちに日常生活を奪われた人々が今も先の見えない生活を強いられている。◇今号は多くの卒業生が在校時代の想い出を寄せてくれた。今年の卒業生たちは、40年後、50年後にどのような想い出を書き、語るのだろう。（菱山）